ニッポンハム食の未来財団　2019年度第一期　団体活動支援助成　完了報告書

企画活動名	アレルギー防災ハンドブックプロジェクト
フリガナ	オオモリ　マユコ
申請者（代表者）氏名	大森　真友子
団体名（正式名称）	団体名:LFA 食物アレルギーと共に生きる会 申請者の役職・肩書など:代表

１．活動結果要約

災害時における食物アレルギーの人への対策として平成28年の内閣府の取り組み指針にも、避難所における食事の原材料表示や、アレルギーサインプレート等を活用することが書かれています。しかし平成30年に起きた西日本・北海道での自然災害時でも、原材料表示が実施されていない地域が非常に多く、食べられないというSOSを受けた現実がありました。この事をきっかけに全国のアレルギーの人が事前にしておく必要がある準備（自助）について情報共有をしようと『アレルギーっ子ママが考えた防災ハンドブック』を作成し発行しました。実際に被災した経験を通しての声や、自助がなかなか進まない理由についてもアンケートを取ることで課題が見つかり、取り掛かりやすい具体例を多く含む、他にはない冊子となりました。

全国の食物アレルギーの会や、自治体、病院、災害支援団体、社会福祉協議会からも冊子希望の問い合わせが現在も続いています。

食物アレルギーがある人達が、『自分で自分の命を守る』ために、どう行動するかを、そしてまた、地域の人たちとの関わり方について、炊き出し表示ページを見せることで、普段言いづらい声を出しやすくなり、一般の人も巻き込み、共に考えられるようにした点が一番大きな成果です。そして関西だけの活動ではなく、各地域のアレルギーの会と連携することにより、全国同時に啓発活動を

展開できたことは、社会への問題提起として非常に有効であったと思います。

２．活動目的

① 自助の必要性をしっかりと伝え、具体的に準備するものを視覚化することで促進すること。

被災した経験者からの声を、実際に食物アレルギーがある人達に情報共有することによって、発災してから動くのではなく、事前にできる準備もあるということを周知する。

また、具体的な例を見せることで、より自分の家庭では何が必要かを考えが浮かびやすくする事で行動に移させることができる。

② 災害時における食物アレルギーの実態を伝え、地域の理解向上を促進すること。

食物アレルギー対応の物資が手に届くのは最低でも８日間はかかり、準備した備蓄品が底をついたときに、どういった行動がとれるのか、地域の人の理解を得ることで、原材料表示についての協力を仰ぎやすくさせることができる。

③ 全国のアレルギーの会と連携し、緊急時の SOS 窓口を作ること。

平時は、自分の住んでいる地域の会員向けの自助啓発も必要だが、いざとなった時に公的な窓口が現在は見つけづらい為、SOS を出しやすい関係性を構築するため、冊子を通し全国の会同士が繋がっておく。その上で、SOS の窓口作り周知しておくことで、声を拾い、行政・学会など適切な場所へとつなぐことが必要である。

３．活動方法

【実施した内容】

冊子作成後、印刷。大阪府を中心に、関西 2 府 4 県の行政・災害支援団体・病院・幼稚園・保育所への配布を行いました。また、７月末に和歌山で開催された日本小児臨床アレルギー学会や大阪府主催のアレルギー講演での配布を行いました。

【実施できなかった内容】

緊急カードの作成。

防水タイプのカードは予算上難しく断念し、無料でダウンロードができるようにしました。

【計画から外れて実施した内容】

A4 チラシの作成。

病院や保健所、子育て支援センターから貼り出す為のポスターやチラシの要望が非常に多く、『アレルギーっ子ママが考えた防災ハンドブック』の無料ダウンロード（QR コード付き）A4 チラシを作成し配布しました。冊子の数が足りず配布できないエリアにも大変好評でした。

４．結果及び波及効果

アレルギーの災害対策マニュアルは、時間をかけて探せば、色々な所のウェブサイトで見つけることができますが、いざという時に探しきれない現状がありました。

『アレルギーっ子ママが考えた防災ハンドブック』にはそういったウェブサイトがどこにあるのか QR コードを付け、見つけやすいようにしています。

その結果、必要な情報を必要な人に届けることができる冊子となり、食物アレルギーではない人にも、支援側として、とても必要な知識が詰まっており、参考になるとのお声を頂きました。

貴財団の助成金を採択していただいた事により、無料ダウンロードだけではなく、手にとって中を見ることができる冊子として、食物アレルギーがある人だけではなく、支援する側にも、９月の防災月間など、災害対策に興味がいく時期に一気に配布するスタートダッシュを切ることができました。

冊子を見た人から口コミは広がり、7～10 月に行ったクラウドファンディングの寄付による増刷も合わせると約 7 万部の冊子が全国にむけ配布されています。

また、想定以上の効果としては、

① 地域の防災訓練にて、この冊子を配布して下さったエリアでは、夏祭りや秋祭りに原材料表示を貼り出す取り組みがされたという報告がありました。

② 府や県が主催する、地域向け避難所運営リーダー研修の教材として冊子を活用し講演をすることができました。

地域と繋がることの意義を改めて感じ、食物アレルギーがある人たち、ない人たち両方が情報共有することによって、顔の見える関係の構築が出来ることを学ぶことができました。

５．今後の活動について

今後も引き続き、自助・共助・公助の必要性について、冊子の認知をあげながら、全国のアレルギーの会と連携できるように活動を進めていきます。

また、今回のように当事者や体験者のアンケートを取りながら、わからないところがどこなのかを明確にし、課題解決に向けて、誰にでもわかるようにかみ砕いていく冊子などの啓発活動も行っていきたいと思います。

以上